

どうする家康？

徳川家康は生涯 19 回の戦をした！

1542年 三河岡崎城主・松平広忠の長男として岡崎に生まれる。



徳川家康 像

1558年(永禄元年)

15歳で初陣。寺部城(てらべじょう:愛知県豊田市)城主「鈴木重辰」(すずきしげたつ)を攻める。

1560年(永禄3年)「桶狭間の戦い」19歳

1560年(永禄3年)5月19日、日本の歴史を動かす大きな合戦が起こりました。「桶狭間の戦い」です。27歳の織田信長が4,000人ばかりの兵を味方に、2万5千人もの今川義元軍に戦いを挑み、勝利しました。徳川家康は、今川義元に側で参戦。この合戦で「今川義元」が討死。徳川家康は約11年ぶりに生地・岡崎城へ帰還する。



岡崎城

1563年(永禄6年)「三河一向一揆」22歳

「徳川家康」は、何度も危機を切り抜けて天下を手にしたが、なかでも1563年(永禄6年)に起きた「三河一向一揆」は、徳川家康の三大危機に数えられる出来事でした苦戦しながらも一揆を鎮圧させ、三河国を統一。

1570年(永禄13年)「金ヶ崎の戦い」29歳

織田信長・徳川家康率いる「織田・徳川連合軍」と「朝倉義景」率いる「朝倉軍」が対峙しました。織田信長の義弟「浅井長政」の裏切りにより、形勢逆転。織田信長は敗退する。「金ヶ崎の退き口」や「金ヶ崎崩れ」といわれる。

1570年(永禄13年)「姉川の戦い」29歳

徳川家康は織田信長とともに浅井・朝倉軍を破る。

1572年(元亀3年)「一言坂の戦い」31歳

二俣城(ふたまたじょう:浜松市天竜区)をめぐる、徳川家康と「武田信玄」の間で勃発。

1572年(元亀3年)「三方ヶ原の戦い」31歳

徳川家康は武田軍に大敗。三方ヶ原の戦いに敗れた徳川家康は、命からがら自らの居城である「浜松城」へと逃げ帰りました。そのあとも武田軍は北上を進め、山県昌景らと共に「二俣城」(浜松市)の陥落に成功します。

1572年(元亀3年)「二俣城の戦い」31歳

徳川家康・織田信長の援軍を期待するが、武田信玄により落城。

1574年(天正2年)「第一次高天神城の戦い」33歳

「武田勝頼」(たけだかつより)に高天神城(たかてんじんじょう:静岡県掛川市)を奪われる

1575年(天正3年)「長篠の戦い」34歳

織田信長が名実ともに天下人となった、歴史上非常に重要な合戦「長篠の戦い」が起こりました。織田・徳川連合軍が、戦国最強と言われた武田軍を相手に圧勝した戦いです。



浜松城

1581年(天正9年)「第二次高天神城の戦い」40歳

徳川家康が高天神城を奪還。

1582年(天正10年)41歳「天目山の戦い」

天目山に逃亡した武田勝頼が自害。武田氏滅亡。

1583年(天正11年)「賤ヶ岳の戦い」42歳

1582年に起こった「山崎の戦い」で、織田信長の仇を討った羽柴秀吉。「清洲会議」で織田信長の後継者争いをした柴田勝家と徐々に対立が深まっていき、「賤ヶ岳の戦い」まで発展しました。これに勝利した豊臣秀吉は、天下人へと大きく前進したのです。徳川家康は羽柴秀吉と同

盟を組む。

1584年(天正12年)「小牧・長久手の戦い」43歳

羽柴秀吉軍と徳川家康・「織田信雄」連合軍の間で勃発。戦乱は全国規模に広がる。しかし、天正13年11月29日(1586年1月18日)、日本列島中央部を「天正大地震」が襲う。マグニチュード(M)8クラス、最大震度6だったとされる。このとき秀吉は近江国坂本城にいたが、あまりの恐ろしさにすぐに大坂城に逃げ帰ったという。磯田道史氏によれば、この地震がなければ、家康は2カ月後に秀吉の大軍から総攻撃を受けるはずだったとする。戦争に突入すれば、その後の北条氏のように、家康には滅亡の可能性も指摘する。

1590年(天正18年)「小田原征伐」49歳

豊臣秀吉が小田原の北条氏を攻め滅ぼした戦い。徳川家康は豊臣側として参戦。



大阪城

1600年(慶長5年)「関ヶ原の戦い」59歳

徳川家康率いる東軍と「毛利輝元」(もうりてるもと)を大将とした「石田三成」(いしだみつなり)中心の西軍の戦い。結果は東軍の勝利。

1603年征夷大将軍になり、江戸幕府を開く 62歳

1614年(慶長19年)「方広寺鐘銘事件」73歳

豊臣秀頼による方広寺大仏・大仏殿再建に際して同寺に納める梵鐘の銘文を巡り生じた。大坂の陣の契機の一つとなった事件である。

1614年(慶長19年)「大坂冬の陣」73歳

豊臣家と徳川家の間で起きた戦い。大坂城(現在の大阪城)の二の丸、三の丸の破却と堀の埋め立てを和議条件として、徳川家康軍は一時撤退する。

1615年(慶長20年)「大坂夏の陣」74歳

大坂城が陥落し、豊臣家滅亡。